

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22
 防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp
 中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp
 情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp
 ☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

ホット通信

教育・文化

ランカの狭い道が日本の中古車です。いっばいになった。おしんのドラマの中には、車の「く」の字も登場しません。日本という国が二つあるのかと、世界地図を広げて友だちと真面目に探した時分が懐かしい。

同じ国だと分かれると日本への興味が増した。経済的に貧しかった日本が短期間で車を

おしん

日記 16 5/9 恒

僕の日本との初めての接点は、一つのテレビドラマでした。そうです。「おしん」なのです。スリランカでの人気はあまりにも高くて、視聴率80%などはさらでした。

同じころ出会ったもう一つの日本。それは日本製の車です。一九七〇年代の末、スリ

若者よ 世界へ羽ばたけ

海の魚のように空飛ぶ鳥のように



イラスト・石井彩子

作れるようになったのだと。ころは、おしんは、もういながら考えると、スリランカがあったけれど、心優しい日本人がたくさんいて、僕を大学にグローバルゼーションと資本主義経済を教えてくれたのは、ほかならぬ日本の中古車でした。

日本に行きたいという夢をかなえてくれたのは親父だった。家を担保してお金を工面してくれた。そのお金と片道の航空券と小さなポストンバッグで十八歳の僕は伊丹空港に降り立った。

だが、スリランカから持ってきた大金は、円に換えると七万円にしかならなかった。結局、日本語学校の月謝も払えず、お世話になっていた方から二万円を借金した。その

日本に住んで二十年がたとうしているのに飽きるどころか、毎日が浮き浮きして仕方ない。僕の生まれ故郷はセイロンと呼ばれていたが、その言葉は予期せぬ発見を意味する「セランディブティー」に由来する。僕にとつての日本はセランディブティーそのものです。

最近、僕は運命を感じてきた。自分が何をさせていたただけるか一生懸命考えている。ちなみに僕の日本人の恩師は学生時代を過ごしたスリランカの紛争解決のために日夜、奔走している。海の中の魚も空飛ぶ鳥も、どこからどこまでが境界線だと分かっていない。日本の若人にも狭い枠組みから開放されて大きく羽ばたき、人の幸せのために貢献してほしい。どここの国にも心温かい人たちがいる。心配することなど何もない。

皆さんが国際人をめざすなかで、僕は甚平が似合う日本家屋に住む普通のおしんになるのが夢なのです。骨をうずめるつもりでこの国のために役に立ちたい。そう思っているのは何も僕だけではないと思います。

（県立天國際文化学部助教 J・A・T・D・にしゃんた）

おわり

を抜きおり 藤伊 花子
 段差ある花壇の印に古い
 吾は赤青黄の花列に咲か
 す 浦 弘子
 バンジューが皆まっすくに
 首立ててにっこり笑う中
 村さん家 稲本 康代
 ひそかなる願いを託す封
 書ゆえいつもと違つボス
 トに落す 長尾 泰子
 ぽっかりと口開きたる釜
 穴は灼熱の銅吹き出しし
 穴 吉田 進
 山の端にメロンの如き陽
 は沈み少年と犬と残照に
 立つ 廣谷 静子
 やわらかき幼のような唇
 にプリンのひと匙母は待
 ちおり 難波 文恵
 去年まで蓮葉繁りしこの
 辺り埋め立てられてタン
 プ行き交う 吉本 富恵
 風に乗りとぎれとぎれに
 聞こえる日米国歌沖の
 基地より 稲生美代子
 家中が寝静まる頃すまむ
 きと腕の疼けはまた来む
 不眠 大藤 峰子
 竹林の青きを抜ければ木
 洩れ日の森へとつづき大
 岩現わる 嶋田百合子
 九十七年生き給いたる母
 の忌に老いし子四人思い
 出語る 龍永 好代
 雲のなき空一面をキャン
 パスにちひろの少女遊は
 せており 川上 恵子
 力強く駅の階段上りきる
 吐く息荒く言葉かわしき
 村岡 笑子
 年金で暮らす二人となり
 たれと足りぬ日もなく余
 る日もなく 塩浦左和子
 じいじとは言えどばあば
 と言われぬそれも又良し茶
 万歩計犬の散

春隣
 雛あられ掴み出
 ます
 生みたての卵ま
 脚伸ぶ
 しっかりと座る
 雛あられ
 モーツアルトイ
 聴く雪の夜
 回天の海はくれ
 かな

川柳
 ◆玖珂川柳教
 着メロで電話の
 ており
 雨で落ち風で散
 桜
 春秋と味覚で酔
 料亭の魚イケサ
 ち
 おみやげの魚
 り上り
 女関もトイレ
 支の犬
 犬猿の伸を
 役
 今年こそ猿に
 の意地
 タックス犬姿
 の影
 ごろ寝する犬
 ている
 負け犬になっ
 り返り
 しっぱ振り隣
 挨拶
 老犬の役目解
 る夢
 血統書あって
 ト犬